重文札幌農学校第2農場農機類標本台帳

一般名称: モーア、畜力モーア改造型機	現地の通称: モーア

資料種別: ◉ 製品-実物 ○ 製品-レプリカ ○ 製品-模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類:				
	☐ 人力用具	☐ 手押式	☐ 耕耘用	☐ 調製用
	☐ 畜力用具	☐ 乗用式	☐ 施肥播種	☐ 施設類
	☐ 原動機具	☒ 牽引式	☐ 管理用	☐ 機素
	☒ トラクタ具	☐ 定置式	☒ 収穫用	☐ その他

管理プレートNo.

台帳No.

相手先番号等

配置位置メモ

脱穀室109

製作者・会社:

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年:

使用目的・使用方法等

本標本は、本来は牧草を刈り取る畜力モーアであり、国産モーアの標本を兼ねる。
トラクタ機械化時代に移行したが、一連のトラクタ作業機を揃える資金がないため、多くの農家が畜力で牽引するドローバを取り外し、トラクタ牽引用に改造して牧草の刈取りに使った。なお、モーアは、モーア附属の車輪駆動であるため、トラクタはＰＴＯ駆動の必要がなく、単に牽引するのみであって改造が容易であったこともある。

利用経過_収集記録_意義等

農家から収集。改造は、畜力牽引部を取外し、トラクタ牽引用ヒッチを付けるのみであり、誰でも自作できた。
畜力モーアは、1869年にガルトネル農場へ、1871年にケプロンが開拓使官園へ持ち込んだのを始めとし、明治・大正時代を通して多数輸入され、北海道酪農の構築に貢献した。1930年代になると、禁輸恐慌・禁輸出再禁止・満州事変、加えて北海道の大凶作が重なって輸入機の価格が高騰したため、ようやく技術力を貯えた農機具工業がモーア・テッダレーキ・吹上カッタ等を国産化した。　（以下、次頁の畜力モーア改造型機の利用経過に続く）

仕様書_解説等

本項は、右写真の手前側機種

右に全体図

写真右展示風景
右図右端　1929年札幌興農園カタログ
下１番目　1910年頃　北大農場モーア

外観特色関連図等

資料の所在

収穫調製室

資料管理経過

作業メモ・追記文

台帳管理番号 S710